

SPECIAL INTERVIEW

松伏町出身 プロ棋士
及川 拓馬 七段
表敬訪問



問合せ 教育文化振興課 社会教育担当 ☎991-1873

及川プロ棋士は、第70期王座戦一次予選において、令和3年12月20日の渡辺大夢六段との対局に勝ち、七段に昇段しました。

2月28日、及川七段が、幼少期を過ごし、将棋と出会った松伏町を表敬訪問され、花束贈呈が行われました。

「5歳の時、父と祖父が将棋を指しているところを見て興味を持ち、父からルールを教えてもらったのが将棋を始めたきっかけ」と及川七段。小学3年で所沢へ転居した後も、日本将棋連盟の松伏支部とは繋がりがあり、覚えてからの頃から将棋を教えてもらった恩師との再会を果たしました。今後の益々のご活躍をお祈りしています。

プロフィール

及川 拓馬(おいかわ たくま) 棋士番号268

1987年5月6日生まれ(34歳)。松伏町出身、練馬区在住。平成10年9月伊藤果八段門下で奨励会入会。平成19年10月プロ棋士の四段に昇段。平成25年1月五段、平成26年10月六段、令和3年12月七段へ昇段。奥様は上田初美 女流四段で2人の姉妹を子育て中。



恩師である松伏将棋サークル会長の三瓶氏と思い出話に花を咲かせました

及川七段に一問一答！

Q対局前のルーティーンはありますか？

A散歩。可能な時は翌日の作戦を考えながら数キロ歩きます。また、棋士は自宅にすることが多いので、ダラダラしないよう毎日同じような生活リズムを心掛けています。

Q印象に残っている対局は？

A第79期順位戦C級1組3回戦
対 飯島栄治七段戦(2020年8月11日)
前期(78期順位戦)を9勝1敗ながら昇級できず、精神的に吹っ切れないまま順位戦がスタートしていました。また開幕2連敗で下を見る状況でしたが、良い内容で勝利することができ自信を持てた1局です。(第80期順位戦でB級2組へ昇級)

Qプロ棋士になれてよかったことは？

A自分の好きなことを仕事にできたこと。いろいろな職業の方とお会いしたり、話しをする機会があることもうれしいことです。

Q大変なことはありますか？

A対局の勝敗は100%自己責任。毎日、将棋の勉強をしないとイケません。

Q松伏町の皆さんへメッセージをお願いします

A幼少期に過ごした松伏の記憶は鮮明に残っており、自分の骨格は松伏町でできたと感じております。また、大人になってからも縁が続いていることをうれしく思います。今後も精進してまいりますので、応援よろしくお祈りいたします。

